

# ファンタジー系お馬さん談義

みずがめ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ファンタジーのお馬さんがこんな会話してたらやだなあ、というお話。

※この作品は小説家になろうにも投稿していません。

# 目次

ペガサスとバイコーンがだべっているよ  
うです。

---

1



ペガサスとバイコーンがだべっているようです。

ペガサス（以下ペ）「あれ、ユニコーン今日欠席なん？」

バイコーン（以下バ）「あーなんか、城に呼び出されてるらしいっすよ」

ペ「はあ、いいな王宮勤め。なあなあ、ユニコーンってずるいと思わん？」

バ「え、何急にペガサスさんユニコーンに嫉妬してんすか？ それめっちゃウケるっす」

ペ「いやむしろバイコーンは嫉妬せんのか？ あいつ清廉とか言われとるけどむっちゃ狂暴やん、やのに処女の懐に抱かれておとなしくなるとかウブすぎやろ」

バ「あー、確かに。処女でも特に若い娘好きっすよね。自分の好みに素直ってゆーか」  
ペ「な？ な？ 俺なんかユニコーンと似た印象上げられるのに駆り出されるのは処女じゃなくて戦場ばっかやしさー。もう勘弁って感じ」

バ「まあでも天馬じゃないっすか。ユニコーンさんみたいに自分の性癖さらけ出して  
るわけでもないし、ザ・正義の使者っぽいしいじゃないすか。好感度高いっす」

ペ「え、マジで？」

バ「オレが嫉妬するんならケルピーのやつっすかね。あいつ見た目が無駄に優しそう

なんすよ」

ペ「無駄に」

バ「無駄につす。ケルピーなんか人肉好物なのに！ 見た目がいいから人間から寄つて来るんすよ、オレなんか怖そうつてんで誰も寄つてこないのに！」

ペ「でもお前も人肉好きなんやろ？」

バ「……………」

ペ「……………え？」

バ「そういうところすよ、ペガサスさん」

ペ「は、なんなん」

バ「オレが食つてるのはあくまで善良な夫だけつすよ、不純なものが好きなんす。純粹クソくらえつす」

ペ「お前の趣向も大概やぞ、自覚ある？」

バ「墮落が横行するためには純粹なものはいらねえんす」

ペ「なんやその不純な動機、そんな真つすぐに純粹な目で見んといてや」

バ「いやでも最近ほちよつとこのやり方も悩んでて」

ペ「えーお前悩み事あるん？ 言うてみ言うてみ」

バ「んー……、最近恐妻家つていうんすか？ そういうのが増えてるみたいで、浮気

を疑った奥さんが旦那をオレの前に引きずってくるんすよねー……」

ペ「う、うわー、怖！」

バ「しかも結局旦那の方は浮気とかしてなくて、でもそれで食べないわけにもいかな  
いじゃないすか」

ペ「うーん、まあ、確かにそれがバイコーンの性質やしなあ」

バ「食わんかったらそれはどれで浮気確定、みたいになるし。食ったら奥さん泣く  
すよ」

ペ「泣くんなら連れてくんな！　って感じやな」

バ「まあ説明するのも可笑しいし、とりあえず食うんすけどね」

ペ「そこはまったくブレんのやな」

バ「指輪だけ残すんすけどね」

ペ「結婚指輪？　あれなんか呪力とかあんの？」

バ「いやー、結婚指輪とか契約と誓約の物でしょ？　純粋なもの食ったら腹壊すも  
ん  
で」

ペ「なるほどな、ところでお前なんか太った？」

バ「最近本当にそういうの多いんすよねー。おかげで大分肥えちゃって」

ペ「へー、あのさー、なんやかんや言うてもさー」

4 ペガサスとパイコーンがだべっているようです。

バ 「はい」  
ペ 「俺ペガサスでよかつたわー」  
バ 「めっちゃウケるっす」